

# 剣道部 同窓生 思い出の道場で稽古

実施期日 平成 27 年 10 月 31 日

平成 27 年 11 月 1 日付 北鹿新聞掲載



思い出の道場で稽古に励む参加者たち（大館高剣道場志道館）

剣道部は旧大館南時代、昭和45年度に愛好会として発足し、同好会を経て47年度に部に昇格した。道場は49年に完成。これまで約250人の部員が所属し練習する場として親しんできたが、平成28年度の統合後、解体が決まっている。稽古公は大館南出身で、昭和54年に全日本女子剣道選手権大会を制した遠藤律子さん（旧姓小松、60）＝秋田市＝が発案。9月に学校で開かれた閉校行事で解体を知り、各年代の卒業生に声を掛けた。現役部員から60歳代まで幅広い年代の剣士たちが集結。遠藤さんは開会行事で参加者に感謝を告げ「みんなが主役。思い出の詰まった道場で

## 大館高剣道部

# 思い出の道場で稽古

「志道館」に  
OBら50人  
解体惜しみ竹刀振る

統合のため年度末閉校の大館高校（今泉校長）の剣道場「志道館」で31日、前身の大館南から歴代の剣道部員約50人が集い、稽古会を開いた。お互いに再会を喜び合いながら、思い出が詰まった道場に竹刀の音を響かせた。

楽しんでほしい」などおあいさつ。再会を喜び合ったり

道場で記念撮影したり。卒業後競技を離れ、久しぶりに竹刀を持つ人もいた。大館南は大館に25年間教員として勤務し、部を指導した大高正さん（70）＝大館市東台＝も参加。「道場がなくなるまではグラウンドでスクワットを履いた厚外稽古、体育館スティングでも練習した。完成以来40年以上部員を支えてきた道場がなくなるのは心残りだが、集まってくれた教え子らに感謝の一言に尽きる」と笑顔。現役部員らと乱取り稽古に取り組んでいた。最後に全員で持参した雑巾で床拭き。遠藤さんは「きょう来られなかった人も解体される前に一度は足を運んでほしい」と話した。